



平成 30 年 11 月 19 日

南陽市議会議長 高橋 弘 殿

倫政会 会長 山口 裕昭



平成 30 年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項 目	調 査 ・ 研 修 内 容
調査期日	平成 30 年 11 月 5 日(月)から 7 日(水)まで 2泊 3日
調査場所	石川県加賀市 / 福井県勝山市
調査目的	石川県加賀市・・・高齢者おたっしゅプランの取り組み 福井県勝山市・・・子育て支援日本一の取り組み
調査概要	別紙のとおり
その他	

会派視察報告書

平成 30 年 11 月 19 日 提出

会派	倫政会	報告者	山口裕昭
視察場所	石川県加賀市/福井県勝山市	視察日	平成30年11月5日～7日

石川県加賀市

・加賀市は石川県最南端部に位置し、平成5年に旧山中町と旧加賀市が合併して誕生した人口67,000人ほどの市で、幕藩体制期には加賀前田藩の支藩「大聖寺藩」の版図にあり、市内に山中・山代・片山津の温泉地を抱える第3次産業の就労人口が多い市だった。

人口減少問題については、高校進学で8割以上が市外に通学しそのまま大学等の高等教育機関に進むため若者の定着率が低く、南陽市と同様の課題を持っていると感じた

また、2023の北陸新幹線延伸に向け新幹線快速停車駅の誘致活動に大変力を入れており、PR動画「加賀停太郎」をYoutubeで配信しており、現在Part2まで作成されていた(今後続編を配信予定とのこと)

これに伴い、加賀温泉郷の女将たちがPVを作成しており、こちらは「レディーカガ」のネーミングで非常にユニークな動画を作成していた。

人口減少問題や新幹線駅誘致などの重いテーマをユーモアを交えて動画にしており、遊び心のある取り組みに本市でも参考に出来ないものかと考えさせられた。

<高齢者おたっしやプランの取り組み>

地域おたっしやサークルは、当初は旧加賀市で制定され山中町との合併後もそのまま引き継がれた。プラン開始時には国からの補助金を利活用し、現在は月3回程度の活動又は、月1～2回のサロン活動を行っているが、市内高齢者の1割程度が参加しており、認知症の予防効果が認められる。

加賀市の介護保険料は月額6300円と全国的にみてかなり高額になっているが、これは施設整備状況が平成15年の段階で国の要求する水準を満たす程度に充実していることが一因となっている。

社会参加の推進を図るため、地域に高齢者の「出場所」「居場所」となる地区の高齢者の自主的なサークルを作り介護予防に資することを目的に、H16「介護予防・地域支えあい事業」補助金のメニュー「生きがい活動通所事業」三位一体税源移譲により廃止後、H17「介護予防・地域支えあい事業」の「地域住民グループ支援事業」→介護保険法改正により創設された地域支援事業で実施。この時三位一体税源移譲もあり、混乱を招くことから「高齢者お達者プラン」より「おたっしや」をとり実施、事業内容は、運営費補助と運営助言を加賀市社会福祉協議会に委託し実施している。

現在のサークルは軽体操などを中心に行う予防型と茶話会などを中心に行うサロン型2種類あり、予防型は3回/月以上、サロン型は1回/月の開催

<所感>

認知症の抑制効果や健康寿命への効果など、数値で表すことが難しい部分が数多くあり客観的な評価は困難だが問題に取り組む姿勢や考え方などに学ぶ点が多くあったと考える。

福井県勝山市

・勝山市はピーク時39,000人だった人口が23,500人まで減少しており少子高齢化が大変進んでいる。また、勝山市は明治期より繊維業が盛んだったことから、女性の社会進出が進んでおり、そのため以前より市内企業内に企業保育施設が設けられていたこともあり、もともと民間保育施設は全国平均や近隣自治体と比較して充実している傾向があった。

<子育て支援について>

勝山市の子育て支援は多岐に渡っており、以下の施策を行っている

- 1) 「ふれあいの里・かつやまっ子」すくすく育成奨励金
→ H29年度より第3子以降に20万円を一括支給し、中3までの医療費を窓口無料化(全生徒対象)
- 2) 保育料の軽減
→ 第3子以降の保育料無料
- 3) 児童センターの利用料無料
→ 全小学生対象
- 4) 放課後デイサービス利用料無料
→ 障害者の利用も可能
- 5) にこにこ妊婦奨励金
→ 妊婦診断を勝山相互病院で受診し県内で出産した場合10万円支給
(H19以降勝山市には民間産婦人科が消滅しが、この施策を行った後総合病院の患者が増加し結果的に、非常勤医しかいなかった勝山総合病院産婦人科に常勤医が配置された)

<所感>

人口減少への危機感はかなり高く、自治体の本気度が感じられる。効果については一朝一夕に測れるものではないため評価が困難だが、実感として全体的に本市よりも手厚い補助メニューを準備していると感じた。本市においても、独自性のある補助メニューを実施すべきと感じさせられた。